

# 優しく感性豊かに

## 自然保育から見える子どもの姿

自然は、五感をフル回転させ、夢中で遊ぶことのできる魅力的な環境です。今回は、保育士の日記から、自然の中で生き生き輝いて遊ぶ子どもの姿と、保育士の思いを紹介します。

### 7月15日

ホースで園庭に水をまいているときのこと。Aちゃんが水のトンネルの上を跳びながら「ワー」と歓声をあげた。他の子も次々に集まってきて一緒に跳び出す。その様子を見つめていたBちゃん。突然、太陽の反射でできた小さな虹に「あつ虹！きれい」と叫んでいる。Cちゃんは、水の蛇作りに挑戦している。



泥遊びを楽しむ子どもたち

### 8月6日

日常の何気ないことでも、子どもの興味はさまざま。一人ひとりの発見や思い、心の動きを見逃していないか、いつも子どもの心に寄り添い共感していきたい。

朝から気持ちが悪く着かすライラしていたDちゃん。どろんどろんで体中に泥をぬりたくり、遊んでいるうちに、だんだん表情が柔らかくなってきた。最後は、みんなで泥をこねたり、全身泥だらけになって笑いあっている。

### 8月12日

泥には不思議な力がある。身も心も満たし、気持ちを解放してくれる。子どもにとつての『土』をもう一度考えたい。また、保育士も子どもの心を温かく癒せる存在でありたい。

砂場に穴を掘り、池を作っているお兄さん達を見たEちゃん。「僕も」と、コップで何度も水を入れるが、砂がすぐに水を吸い「水たまらん」と悲しそう。しばらくお兄さんの様子をじっと見ていた後、コップの代わりにバケツで水を入れ始めた。みるみるうちに水がたまり「池できた」と達成感と満足いっぱい顔。コップよりバケツの方が、たくさん水を運べることに気付いたEちゃん。子どもは自分で考える力を持っている。すぐに口を出そうとした自分にヒヤッとした。困っているときこそ、子どもがどう動き出すか、じっと見守ることが大切だと実感する。

### 8月19日

花にとまったチョウを見つけ、息を潜めながら近づき、やっと捕まえたFちゃん。「やった！」と大喜び。逃げないようにぎゅっと羽を握り、籠に入れようと手を広げると羽が破れている。驚いて手を離すが飛べない。動かなくなったチョウをじっと見て「逃がしてやろう」と、そっと花にとまらせた。次の日、チョウは見当たらず「どこへ行ったの。生きているかな？」と不安そう。

チョウを自分で捕まえた喜び、羽が破れ飛べなくなった驚き、チョウがいなくなった不安など、生き物との出会いから、かわり方や、命の尊さを学んだ貴重な体験だった。

自然は子どもの心を揺さぶり「不思議だ、なぜ、どうして？」と、一生懸命考えさせられ、解決しようとする力を生み出します。また、自然の中での様々な体験は、困難なことにぶつかっても自分で乗り越えようとする「生きる力」の基礎につながっていきます。今後も自然保育を柱とし、子どもたちの心と体を豊かに育めるよう、温かく見守りながら保育を進めていきます。

足羽東保育園

主任 國枝 洋子

